

■「効果の見える治水事業」

愛媛県 ^{ぼうじかわ} 傍示川 (松山市) の治水事業 『準用河川傍示川改修事業』



松山市長 ^{のし} 野志 ^{かつひと} 克仁

■流域の概要

松山市は、人口約52万人を誇る四国最大の都市で、東は西日本の最高峰石鎚山を擁する四国山地を背景とし、西は波静かな国立公園の瀬戸内海を望む、美しい海や島のあるまちです。

また、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれた本市では、農林水産品が数多く生産され、松山の質の高い産品は、全国的に好評をいただいています。11月には、「まつやま農林水産物ブランド」の一つである高級柑橘「紅まどんな」の出荷が始まりました。

このような温暖な気候ではありますが、近年、地球温暖化などの影響による局地的な大雨で、都市部の浸水被害が頻発するようになり、平成13年6月の大雨では市内一円で浸水被害がありました。そのため、特に被害が大きかった10地区を重点地区に位置付け、雨水幹線や雨水排水ポンプ場の整備に取り組んできたほか、平成23年度からは、集中豪雨時の浸水想定区域や避難情報などを記載した内水ハザードマップを作成し、市民に情報を提供することで、防災意識の向上に取り組んでいます。

■事業の概要

松山市南部を流れる傍示川は、一級河川石手川と重信川に挟まれた平地部に位置し、河床勾配も緩やかなため、台風や大雨で頻繁に家屋や農地等に大きな被害を与えていました。そこで浸水被害の解消のため、昭和61年に準用河川に指定し、国庫補助の総合流域防災事業で改修を進めています。

現在、住宅が連なる狭小部の難施工区間を、自立式構造である矢板護岸形式で改修しています。地元住民の皆さんの御協力により、事業は着実に進み、延長1955mのうち1870mの整備が完了していますので、周辺地域では、河川氾濫による大規模な浸水被害は解消できたと考えています。引き続き、未整備区間の早期完成を目指して整備を進めます。

また、本市は、重信川の改修で有名な足立重信のほか、信濃川大河津分水堰復旧工事で現場責任者として活躍し、後の治水工学に多くの影響を与えた『治水工学』をまとめるなど、河川行政や河川工学の発展に貢献した土木技術者の宮本武之輔氏を輩出したまちでもあります。

これからも、国、県の御支援をいただきながら、宮本武之輔氏が残した河川への想いを引き継いで河川改修に取り組み、市民の皆様が、安全・安心で笑顔で暮らせる「まちづくり」「川づくり」を目指します。

